

Financial Report

第74期中間事業報告書 2004.4.1~2004.9.30



第74期中間事業報告書 目次

3	株主のみなさまへ
4	営業の概況及び業績の推移
6	部門別営業報告(単独)
8	活動リポート
10	特集 「ラリー・ジャパン2004」
12	連結貸借対照表
13	連結損益計算書
14	連結キャッシュ・フロー計算書
15	株主様工場見学会のご案内
16	単独貸借対照表
17	単独損益計算書
18	中間配当金/株式事項
19	役員



PHOTO:レガシィ B4 / ツーリングワゴン 3.0R spec.B

株主のみなさまへ

株主のみなさまにおかれましては、ますますご清栄のことと拝察申しあげます。

ここに、第74期中間事業報告をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申しあげます。

当中間期の業績は、連結決算につきましては、自動車部門における国内の軽自動車や欧州・豪州での販売が好調に推移し、売上高は過去最高となりました。しかし、利益面では為替レート差や車種構成差等により、前年同期に比べ減益となりました。

また単独決算につきましても売上高は過去最高となり、営業利益と経常利益が前年同期を上回りましたが、当期純利益につきましては、投資評価引当金繰入額を計上したことなどにより減益となりました。

当中間配当につきましては、株主のみなさまに対する長期的安定配当の基本方針に基づき、引き続き1株につき4円50銭と決定させていただきました。

今後の経営環境につきましても、国内市場における全体需要の低迷や米国市場における販売競争の激化、さらに原油・鉄鋼をはじめとする原材料の高騰や為替の影響など大変厳しい状況にあります。

こうした厳しい経営環境ではありますが、スバルチームは9月に日本で初めて開催されたWRC(FIA 世界ラリー選手権)ラリー・ジャパン2004において優勝を飾るという、好材料もあります。この優勝の勢いを追い風に、商品開発から販売体制に至る全ての領域でスバルブランドの浸透を図ることにより、企業価値のさらなる向上を目指してまいります。

今年度は中期経営計画『Fuji Dynamic Revolution-1』(FDR-1)の中間点として節目の年であり、拡販に資するための効果的な販売戦略を実践してまいります。

同時に、5月に新設した「スバル原価企画管理本部」を中心に商品力とのバランスを取ったコスト競争力の強化をさらに推し進め、収益力の向上を図ってまいります。

また地球環境保全やコンプライアンスなど、企業の社会的責任としての諸活動にも積極的に取り組み、信頼される企業として、より一層の努力をしております。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも引き続きご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成16年12月



代表取締役社長
竹中恭二

営業の概況及び業績の推移

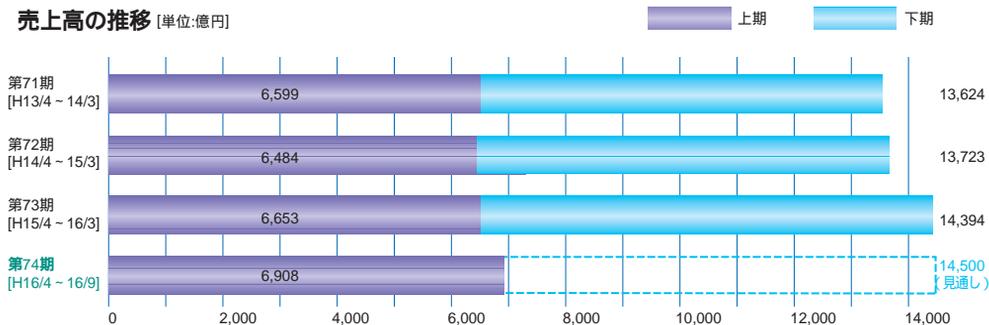
[営業の概況]

当中間期の連結決算の売上高は、自動車部門の国内において、軽自動車が「スバル R2」の効果もあり前年同期を大きく上回るとともに、海外においても欧州および豪州での販売が好調に推移し、6,908億円と前年同期に比べ254億円（3.8%）の増収となりました。利益面につきましては『FDR-1』に沿った先行開発投資を行ったことに加え、

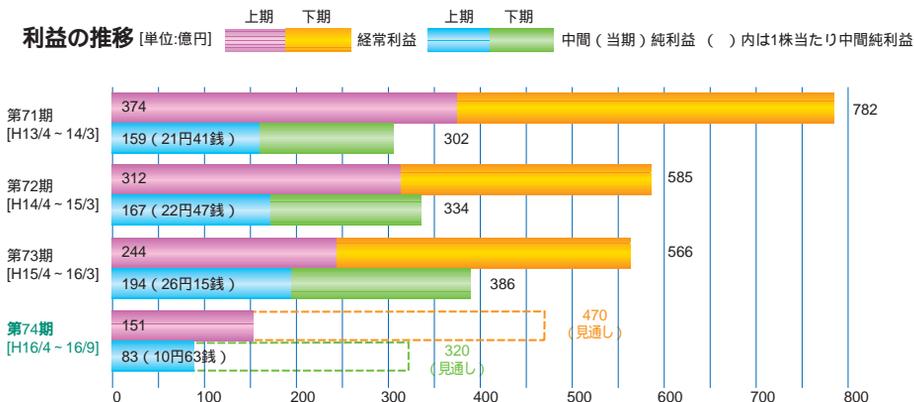
為替レート差および車種構成差等により、営業利益は155億円と前年同期に比べ28億円（15.3%）の減益となり、経常利益につきましても、151億円と前年同期に比べ94億円（38.5%）の減益となりました。また当期純利益につきましても投資有価証券売却益の減少などにより、83億円と前年同期に比べ111億円（57.4%）の減益となりました。

[連結の業績及び推移]

売上高の推移 [単位:億円]



利益の推移 [単位:億円]



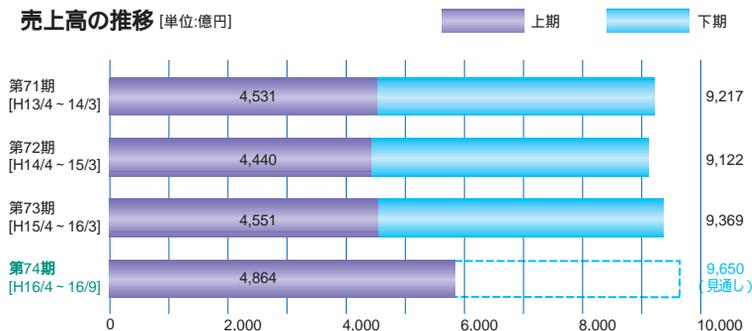
単独決算の売上高は、自動車部門において、国内では軽自動車が大幅に増加したほか、海外においても、北米を中心とした主要地区すべてにおいて前年同期を上回り、4,864億円と前年同期に比べ312億円(6.9%)の増収となりました。

利益面につきましては、売上高の増加に加え各種費用の低減もあり、営業利益は199億円と

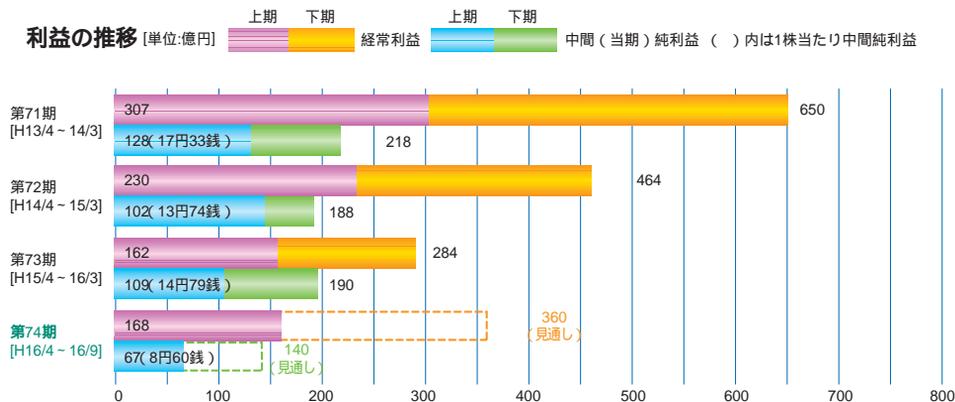
前年同期に比べ54億円(37.9%)の増益となり、経常利益につきましても168億円と前年同期に比べ6億円(4.1%)の増益となりました。しかし、当期純利益につきましては、投資有価証券売却益の減少や投資評価引当金繰入額を計上したことなどにより、67億円と前年同期に比べ42億円(38.9%)の減益となりました。

[単独の業績及び推移]

売上高の推移 [単位:億円]



利益の推移 [単位:億円]



部門別営業報告（単独）

[スバル・オートモーティブビジネス]

国内、海外ともに売上台数が増加。

スバルの登録車につきましては、6月にマイナーチェンジをした「インプレッサ」がWRX FIA世界ラリー選手権「ラリー・ジャパン2004」での優勝も追い風となり、販売が好調に推移しましたが、昨年フルモデルチェンジの効果が大きかった主力車種「レガシィ」や「フォレスター」は減少し、登録台数全体では53千台（前年同期比2.9%減）となりました。

一方、軽自動車につきましては、昨年12月に発売した「スバルR2」の効果により、「プレオ」を含めた軽乗用車系で前年同期を大幅に上回りました。また、「サンバー」につきましても好調に推移し、届出台数全体でも79千台（前年同期比26.3%増）と前年同期を大幅に上回りました。

以上の結果、国内における販売台数の合計は133千台（前年同期比12.7%増）となり、売上（出荷）台数につきましても133千台（前年同期比12.0%増）となりました。

海外につきましては、北米市場において、5月から販売を開始した新型レガシィが好調なスタートを切ると

もに、「フォレスター」も堅調に推移しました。またゼネラルモーターズ（GM）傘下にあるサブオートモービルからの受託生産もあり、北米向け完成車輸出台数は60千台（前年同期比7.2%増）となりました。

欧州につきましては、「インプレッサ」の販売が苦戦しているものの、昨年秋に導入した「新型レガシィ」の販売が引き続き好調に推移し、完成車輸出台数は27千台（前年同期比27.3%増）と大幅に伸長しました。

豪州につきましても、昨年12月から10ヶ月連続で過去最高を更新するなど好調な販売を維持し、完成車輸出台数は17千台（前年同期比22.2%増）となりました。

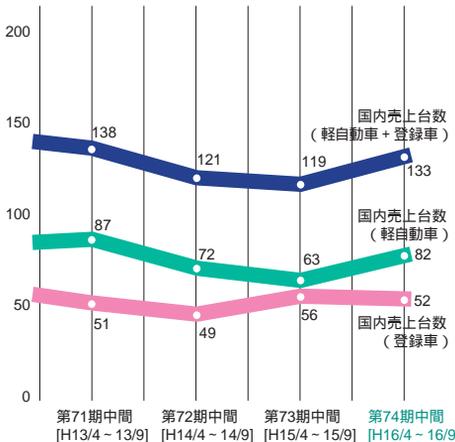
これらの結果、海外全体の完成車輸出台数は114千台（前年同期比17.1%増）となりました。

またCKD（海外現地生産分）につきましても58千台（前年同期比27.4%増）となり、完成車およびCKDの合計は、172千台（前年同期比20.4%増）となりました。

以上の結果、国内、海外（CKDを含む）を合わせた売上（出荷）台数は306千台（前年同期比16.6%増）となり、スバル・オートモーティブビジネス全体の売上高は4,366億円（前年同期比7.2%増）となりました。

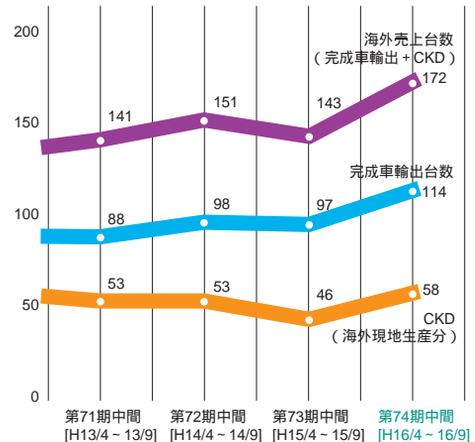
売上台数の推移（国内）

[単位:千台]



売上台数の推移（海外）

[単位:千台]



[航空宇宙カンパニー]

防衛庁向け製品の売上高が増加。

防衛庁向け製品の売上高は、多用途ヘリコプター「UH-1J」や無人標的機「ターゲットドローン」等の納入機数が減少しましたが、次期固定翼哨戒機・輸送機（P-X/C-X）の売上が寄与し、前年同期を上回りました。また、民需ではボーイング社向け製品の減少や為替の影響があったものの、定点滞空試験機の納入やエアバスA380の売上開始などにより、ほぼ前年同期並の売上高となりました。これらの結果、全体の売上高は273億円（前年同期比5.7%増）となりました。



「定点滞空試験機」本年5月に宇宙航空研究開発機構(JAXA)に納入し、9月に初飛行に成功しました。
写真提供：宇宙航空研究開発機構 (JAXA)

[産業機器カンパニー]

国内外で売上が好調に推移。

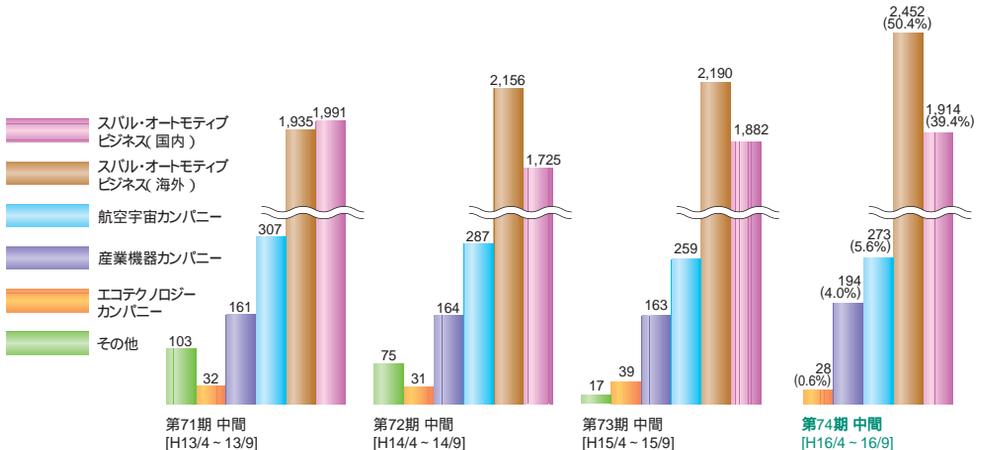
国内につきましては、ポンプ搭載用エンジン等の販売台数は減少したものの、新型発電機の販売台数の増加により売上高は前年同期を上回りました。また、海外につきましては、業界大手取引先への絞った販売戦略が功を奏し、米国向けレジャービークル用エンジンの販売が引き続き好調に推移したことに加え、同じく米国向け産業機械搭載用エンジンの販売台数が増加したことなどにより、売上高は前年同期を大幅に上回りました。これらの結果、全体の売上高は194億円（前年同期比19.2%増）となりました。

[エコテクノロジーカンパニー]

「フジマイティ」の販売台数が減少。

塵芥収集車「フジマイティ」は、中国等への輸出台数および西日本地域での販売台数は前年同期を上回りましたが、昨年度の首都圏におけるディーゼル車排出ガス規制に伴う特需の反動により、全体の販売台数は減少し、売上高は28億円（前年同期比26.7%減）となりました。

部門別売上高の推移 [単位:億円] ()内の数字は、第74期中間の部門別売上高構成比です。



活動レポート

「スバル R2」が各方面で高い評価を受ける

新型軽自動車「スバル R2」が各方面で高い評価をいただいております。

軽自動車では唯一「2004-2005日本カー・オブ・ザ・イヤー10ベストカー」を受賞しました。

また、2005年次RJCカー・オブ・ザ・イヤーでは「特別賞ベスト軽乗用車」を受賞。同賞は一般ユーザーが正規ディーラーを通じて新車購入できる全ての軽乗用車を対象に選出されるものです。「スバル R2」はこれまでにないスタイリッシュなデザインや低燃費をはじめとした性能面での向上などが高く評価されました。

さらに、J.D. パワー アジア・パシフィック2004年日本軽自動車初期品質調査SMで「軽自動車初期品質 No.1」を獲得しております。

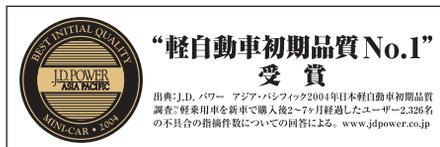


PHOTO:スバル R2 i

第38回東京モーターショー2004 - 働くくるまと福祉車両 - に出展

11月2日～7日に、千葉県・幕張メッセで「第38回東京モーターショー2004 - 働くくるまと福祉車両 - 」が開催されました。当社は「Open all roads クルマと生きる喜びを、すべての人に」をテーマに、参考出品車「スバル R1」の自操式装置装着車と介護車両をはじめ、多数の福祉車両や商用車を出展いたしました。「スバル R1」は「小さいからこそ愛されて、小さいからこそ誇りに思える」という小さいクルマの価値を追求した、新しい時代のミニカーとして開発され、近日中に発売される予定です。上質なデザインと、コンパクトでありながら多様性と利便性のある室内を備え、他にはない存在感を持つ「スバル R1」で、軽自動車の市場に新たな価値を提案していきます。



PHOTO:当社の展示ブース(上)、
参考出品車「スバル R1」(下)。

「新型レガシィ」を北米市場に本格導入

昨年の日本および欧州・豪州市場引き続き、本年6月より北米市場において「新型レガシィ」の本格的な販売が開始されました。

北米市場における「新型レガシィ」の販売台数は6月から10月までの累計で35万台、旧型モデルを含めた「レガシィ」全体の販売台数でも44万台（前年同期比18%増）と好調なスタートを切りました。今後とも生産・販売・サービスの連携をより一層強化し、確実な成果へと繋げてまいります。

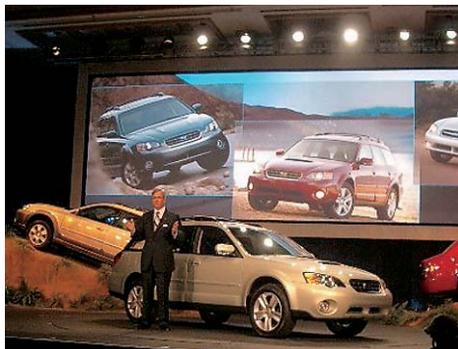


PHOTO:5月に開催された全米ディーラー大会

2004年国際航空宇宙展（JA2004）に出展

10月6日～10日、パシフィック横浜において「2004年国際航空宇宙展」が開催されました。

当社は、わが国初の小型機による自動離着陸実験機（FABOT）をはじめ、複合材主翼構造品などを展示し「世界に誇る開発・製造能力」「無人機システムを中心とした先進の航空機システムインテグレーション技術」「次世代小型機への取り組み」について紹介することで、当社の個性、存在感を内外にアピールしました。



PHOTO:2004年国際宇宙展の当社ブース

次世代型塵芥収集車を新明和工業と共同開発

次世代型塵芥収集車の開発を新明和工業と共同で行うことに合意し、開発に着手しました。開発の基本コンセプトは、現製品と比べ大幅にユーザーメリットを高めることとし、その具体化のために、広くユーザーの意見、要望を求めています。なお、5月に東京ビックサイトで行われた「2004年NEW環境展」において、プレス式シリーズのプロトタイプを公開しました。



PHOTO:2004年NEW環境展に出品した次世代型塵芥収集車

WRC日本初開催、 SUBARUが初代勝者に



「走り極めることで、愉しさと安全を極める」

SUBARUはこの理念のもと、世界のモータースポーツの頂点の1つであるWRCでの極限の闘いを通じて、水平対向エンジンを核とした「SYMMETRICAL AWD」を磨きつづけてきました。WRCで得られた実証データは量産車開発にフィードバックされ、SUBARU車全体の性能向上につながっています。

待望の日本初開催により、WRCへの注目度がますます高まってくると考えられます。今後も当社ではコア技術やクルマ作りのポリシーをわかりやすく伝えていく場として、WRC活動を続けてまいります。暖かいご声援をよろしくお願いたします。

待望の日本初開催となったWRC(世界ラリー選手権)「ラリー・ジャパン2004」。日本のマニファクチャラーとして唯一参戦したSUBARUは、初日からエースのベター・ソルベルグが快走し、見事総合優勝を飾りました。

また、より市販車に近い車両で争われるグループNでも日本人ドライバー新井敏弘が制しました。

今回はラリー・ジャパン2004でのSUBARUの活躍をご報告するとともに、本格参戦15年目を迎えたWRC活動の持つ意味と参戦の効果について今一度、考えてまいります。

何故、WRCに参戦し続けるのか

1990年に初代レガシィで本格的に参戦を始めたSUBARUのWRC活動。1995・96・97年には3年連続でマニファクチャラーズタイトルを獲得。2003年のベター・ソルベルグをはじめ3人のドライバーズ・チャンピオンも輩出しています。

これまでの輝かしい実績はもとより、15年にもわたるWRC活動の背景には「SUBARUのクルマづくりの方向性を明確に示す」ということが挙げられます。



ペター・ソルベルグ期待通りの走りで、総合優勝。 グループNもインプレッサが上位を独占。

2004 WRC 第11戦 ラリー・ジャパン2004 総合結果

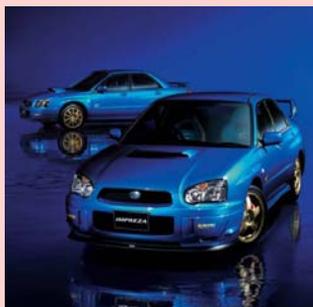
順位	ドライバー / コドライバー	マシン
1	P.ソルベルグ / P.ミルズ	SUBARUインプレッサ WRC 2004
2	S.ローブ / D.エレナ	シトロエン クサラ WRC
3	M.マルティン / M.パーク	フォード フォーカス RS WRC 04
7	M.ヒルボネン / J.レーティネン	SUBARUインプレッサ WRC 2004

2004 WRC 第11戦 ラリー・ジャパン2004 グループN結果

順位	ドライバー / コドライバー	マシン
1	新井敏弘 / T.サーカム	SUBARUインプレッサ WRX STi
2	鎌田卓麻 / 加瀬直毅	SUBARUインプレッサ WRX STi
3	D.ヘリッジ / G.マクニール	SUBARUインプレッサ WRX STi



ブランドイメージの向上と宣伝効果



WRCに参戦するマシンは、一定の改造が認められてはいますが、ベースとなる車両の車名や基本構造は量産車と同一です。つまりWRCで活躍することがその車種さらにはSUBARUブランドの認知度の向上につながります。

ラリーの本場と言われるヨーロッパやオーストラリアでは、「SUBARUインプレッサ」もコストパフォーマンスの高い「走りのクルマ」として知られています。

日本では今回が初開催となりますが、来年以降の開催も予定されており、国内でもさらにWRCの注目度が高まることが予想されます。当社としましては、今後ともWRCに参戦し続けることによって、実際の販売活動にも、役立ててまいります。

ディーラーメカニックの技術向上の場として

ラリー・ジャパン2004では、ディーラーメカニックの教育活動の一環として「SUBARUラリーチームジャパン」を結成し、全国の特約店から選抜されたメカニックがチームのサポートを行ないました。この貴重な体験で得られた技術は、日常の業務に活かされています。

また、当社販売特約店である「東京スバル(株)」が独自のラリーチーム「東京スバルラリーチーム」を結成し参戦。グループNクラス2位、3位を獲得しました。



連結貸借対照表

単位：百万円

科目	第74期中間 平成16年9月30日現在	第73期 平成16年3月31日現在
資産の部		
流動資産	673,871	654,879
現金及び預金	32,202	46,684
受取手形及び売掛金	117,340	122,724
有価証券	130,242	113,490
たな卸資産	195,241	179,338
短期貸付金	105,718	101,871
繰延税金資産	31,903	34,149
その他	62,098	57,284
貸倒引当金	873	661
固定資産	718,441	694,848
(有形固定資産)	(528,966)	(509,743)
建物及び構築物	128,597	117,446
機械装置及び運搬具	169,934	161,950
土地	169,320	166,518
建設仮勘定	13,658	20,935
その他	47,457	42,894
(無形固定資産)	(41,865)	(40,453)
(投資その他の資産)	(147,610)	(144,652)
投資有価証券	62,901	57,045
長期貸付金	5,096	4,918
繰延税金資産	25,444	29,707
その他	57,184	57,938
投資評価引当金	280	280
貸倒引当金	2,735	4,676
資産合計	1,392,312	1,349,727

科目	第74期中間 平成16年9月30日現在	第73期 平成16年3月31日現在
負債の部		
流動負債	615,764	603,231
支払手形及び買掛金	205,017	193,186
短期借入金	236,736	227,917
コマーシャルペーパー	5,000	10,000
一年内償還社債	10,300	10,000
未払法人税等	8,786	5,092
未払費用	62,929	69,784
賞与引当金	17,091	17,165
製品保証引当金	27,210	26,959
その他	42,695	43,128
固定負債	308,902	289,469
社債	100,500	90,800
長期借入金	52,994	40,279
土地再評価に係る繰延税金負債	478	478
退職給付引当金	63,925	61,654
役員退職慰労引当金	994	1,228
連結調整勘定	40,357	44,027
その他	49,654	51,003
負債合計	924,666	892,700
少数株主持分		
少数株主持分	3,431	3,319
資本の部		
資本金	153,795	153,795
資本剰余金	160,071	160,107
利益剰余金	171,475	165,192
土地再評価差額金	421	421
その他有価証券評価差額金	12,441	10,291
為替換算調整勘定	31,783	33,300
自己株式	2,205	2,798
資本合計	464,215	453,708
負債、少数株主持分及び資本合計	1,392,312	1,349,727

連結損益計算書

単位：百万円

科目	第74期中間	第73期中間
	自平成16年4月1日 至平成16年9月30日	自平成15年4月1日 至平成15年9月30日
経常損益の部		
営業損益の部		
売上高	690,791	665,389
売上原価	525,179	493,746
販売費及び一般管理費	150,111	153,335
営業利益	15,501	18,308
営業外損益の部		
営業外収益	6,804	10,375
受取利息及び配当金	1,076	1,187
連結調整勘定償却額	3,671	3,360
デリバティブ評価益	-	1,807
その他	2,057	4,021
営業外費用	7,244	4,207
支払利息	1,268	1,290
デリバティブ評価損	1,782	-
持分法による投資損失	271	-
その他	3,923	2,917
経常利益	15,061	24,476
特別損益の部		
特別利益	384	6,276
固定資産売却益	81	658
投資有価証券売却益	221	4,576
前期損益修正益	-	887
その他	82	155
特別損失	1,448	4,133
固定資産売却・除却損	1,339	3,721
投資有価証券売却損	0	-
投資有価証券評価損	109	58
その他	-	354
税金等調整前中間純利益	13,997	26,619
法人税、住民税及び事業税	1,449	4,027
法人税等調整額	4,147	3,230
少数株主損益	(減算) 126	(加算) 42
中間純利益	8,275	19,404

連結キャッシュ・フロー計算書

●キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、1,372億円と前連結会計年度末に比べ22億円の減少となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動による資金の増加は、税金等調整前中間純利益140億円、減価償却費357億円を主たる源泉として、売上債権の減少57億円、仕入債務の増加額43億円等の収入に対し、たな卸資産の増加額180億円、法人税等支払額39億円等の支出により373億円となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動により支出した資金は、固定資産の取得(売却との差額)499億円、貸付金による支出(回収による収入との差額)127億円等により624億円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動による資金の増加は、短期借入金の純増加額180億円、コマーシャルペーパーの純減少額50億円、長期借入金の純増加額32億円、社債発行による収入(償還による支出との差額)100億円および、配当金の支払額35億円等により、223億円となりました。

●連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

単位：百万円

科目	第74期中間	第73期中間
	自 平成16年4月1日 至 平成16年9月30日	自 平成15年4月1日 至 平成15年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	37,307	25,930
投資活動によるキャッシュ・フロー	△62,405	△57,384
財務活動によるキャッシュ・フロー	22,342	19,918
現金及び現金同等物に係る換算差額	559	17
現金及び現金同等物の増加額(△減少額)	△2,197	△11,519
現金及び現金同等物期首残高	139,401	169,944
現金及び現金同等物中間期末(期末)残高	137,204	158,425

株主様工場見学会のご案内

今年度も株主様向けの工場見学会を開催いたしますので、ご案内いたします。ご見学いただく群馬製作所矢島工場は、当社のスバル・オートモーティブビジネスの主力生産拠点です。また同工場内にある歴代のスバル車などを展示した「スバル ビジターセンター」もあわせてご見学いただけます。



PHOTO: 群馬製作所矢島工場(左)
昨年の見学会の様子(右)

ご見学日時

平成17年3月5日(土) 11:00から15:00まで

ご見学場所

群馬製作所矢島工場およびビジターセンター

所在地: 群馬県太田市庄屋町1-1

生産品目

レガシィ、インプレッサ、フォレスター 他

ご集合場所

東武伊勢崎線太田駅(浅草から特急りょうもう号で約1時間20分)

当日は、東武伊勢崎線太田駅より送迎バスをご用意いたします。

お車でお越しの株主様は矢島工場に直接おいください。

当日のご集合場所までの交通費は、株主様のご負担とさせていただきますのでご了承ください。

ご見学人数

80名様とさせていただきます。

ご希望者多数の場合は、誠に勝手ながら抽選とさせていただきますので、ご了承ください。

ご見学いただく株主様には、後日詳細をご連絡させていただきます。

お申込方法

官製はかぎに、株主名簿にご登録の郵便番号
ご住所 お名前 交通手段(電車・車・その他)

電話番号 携帯電話番号をご記入の上、以下の宛先までお送りください。平成17年1月14日(金)の到着分をもって締め切らせていただきます。なお、ご参加は株主様ご本人とさせていただきます。

宛先

〒160-8316 東京都新宿区西新宿1-7-2
富士重工業株式会社「株主様工場見学会」係
TEL 03-3347-2012

ご不明な点は上記へお問い合わせください。

単独貸借対照表

単位：百万円

科目	第74期中間 平成16年9月30日現在	第73期 平成16年3月31日現在
資産の部		
流動資産	425,292	408,744
現金及び預金	13,273	25,336
受取手形	1,844	2,585
売掛金	106,038	120,090
有価証券	110,224	75,850
製品	37,231	31,774
原材料	5,456	4,988
仕掛品	50,977	51,140
貯蔵品	1,280	1,580
前渡金	19,040	15,305
前払費用	3,627	2,248
繰延税金資産	16,176	16,045
未収入金	18,687	24,658
短期貸付金	40,037	31,437
その他	1,431	5,746
貸倒引当金	35	44
固定資産	535,112	538,380
(有形固定資産)	(238,448)	(241,788)
建物	50,776	51,548
構築物	6,666	6,920
機械装置	83,198	88,002
航空機	89	107
車両運搬具	1,394	1,465
工具器具備品	9,897	11,179
土地	81,991	80,274
建設仮勘定	4,434	2,289
(無形固定資産)	(20,413)	(20,117)
工業所有権	10	11
ソフトウェア	11,871	13,219
その他	8,530	6,886
(投資その他の資産)	(276,251)	(276,474)
投資有価証券	46,097	42,480
関係会社株式	139,168	138,336
出資金	34	32
関係会社出資金	453	453
長期貸付金	61,596	60,279
長期前払費用	2,951	3,102
繰延税金資産	29,621	31,985
その他	7,651	7,828
投資評価引当金	5,680	280
貸倒引当金	5,643	7,746
資産合計	960,405	947,124

科目	第74期中間 平成16年9月30日現在	第73期 平成16年3月31日現在
負債の部		
流動負債	300,384	304,489
支払手形	3,441	3,762
買掛金	179,237	172,465
短期借入金	25,040	25,040
一年内返済長期借入金	7,016	7,018
一年内償還社債	10,000	10,000
未払金	10,650	14,716
未払費用	31,700	41,196
未払法人税等	3,154	447
前受金	6,912	1,885
預り金	803	699
前受収益	170	132
賞与引当金	11,285	11,417
製品保証引当金	8,713	9,180
設備関係支払手形	580	2,075
その他	1,679	4,449
固定負債	149,532	138,068
社債	100,000	90,000
長期借入金	4,779	4,794
長期未払金	780	1,675
預り保証金	1,420	1,404
退職給付引当金	42,405	40,067
役員退職慰労引当金	145	127
その他	0	-
負債合計	449,916	442,557
資本の部		
資本金	153,795	153,795
資本剰余金	160,070	160,070
資本準備金	160,070	160,070
利益剰余金	186,884	183,892
利益準備金	7,901	7,901
配当準備積立金	-	6,000
退職手当積立金	-	1,000
土地圧縮積立金	687	-
別途積立金	85,335	78,335
中間(当期)未処分利益	92,961	90,656
(うち中間(当期)純利益)	(6,706)	(19,012)
その他有価証券評価差額金	11,917	9,579
自己株式	2,179	2,771
資本合計	510,488	504,566
負債及び資本合計	960,405	947,124

[注] 百万円未満切り捨て

単独損益計算書

単位：百万円

科目	第74期中間	第73期中間
	自平成16年4月1日 至平成16年9月30日	自平成15年4月1日 至平成15年9月30日
経常損益の部		
営業損益の部		
営業収益		
POINT 1 売上高	486,402	455,163
営業費用	466,440	440,690
売上原価	388,832	362,904
販売費及び一般管理費	77,607	77,786
POINT 1 営業利益	19,961	14,472
営業外損益の部		
営業外収益	4,134	5,131
受取利息及び配当金	1,264	1,227
デリバティブ評価益	-	1,726
その他の営業外収益	2,869	2,176
営業外費用	7,199	3,376
支払利息	809	831
デリバティブ評価損	1,782	-
その他の営業外費用	4,607	2,545
POINT 1 経常利益	16,896	16,227
特別損益の部		
特別利益	239	4,979
固定資産売却益	7	21
投資有価証券等売却益	220	4,035
貸倒引当金戻入額	12	35
前期損益修正益	-	886
特別損失	6,467	3,685
固定資産売却・除却損	1,065	3,550
投資有価証券等評価損	1	56
債務保証損失引当金繰入額	-	78
POINT 2 投資評価引当金繰入額	5,400	-
税引前中間純利益	10,668	17,522
法人税、住民税及び事業税	3,319	7,804
法人税等調整額	641	1,267
中間純利益	6,706	10,985
前期繰越利益	86,365	75,148
自己株式処分差損	110	-
中間未処分利益	92,961	86,134

POINT 1 増収増益

国内・海外ともに売上台数が前年同期を上回り、売上高は312億円の増収となりました。利益面でも為替レート差等の減益要因を売上高の増収によりカバーし、営業利益は54億円の増益、経常利益でも6億円の増益となりました。

POINT 2 特別損益

当中間期は、投資株式の減損リスクに備えるため、投資評価引当金繰入額54億円を特別損失に計上しています。

POINT 3 社債の発行

社債償還資金や関係会社に対する投融資および設備資金に充当するため、普通社債200億円を発行しました。これにより有利子負債は1,468億円となり、前期末に比べ、99億円増加しています。

[貸借対照表及び損益計算書に関する注記]

1. 有形固定資産減価償却累計額……………438,327百万円
2. 保証債務……………163,963百万円

[注] 百万円未満切り捨て

中間配当金

平成16年11月12日開催の取締役会において、当社定款第37条の規定にもとづき、平成16年9月30日最終の株主名簿等に記載された株主に対し、下記のとおり中間配当の実施を決議しました。

1. 中間配当金1株につき 4円50銭

2. 支払請求権の効力発生日

および支払開始日 平成16年12月9日

株式事項

平成16年9月30日現在

株式の総数

発行する株式の総数	1,500,000,000株
発行済株式の総数	782,865,873株
[注] 当期中の増加	0株

株主数

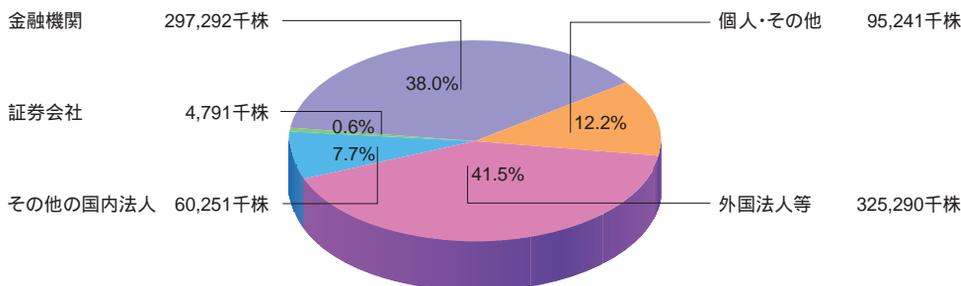
44,354名

大株主

株主名	株式数(千株)
ゼネラル モーターズ オブ カナダ リミテッド	157,262
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	57,761
ザチェースマンハッタンバンクエヌエイロンドン	55,524
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	52,229
株式会社みずほコーポレート銀行	24,361
スズキ株式会社	21,760
日本生命保険相互会社	16,084
株式会社損害保険ジャパン	11,716
デポジタリー・ミニーズ・インコーポレーション	8,645
富士重工業取引先持株会	8,284

株式の分布状況

合計782,865千株



役員

平成16年9月30日現在

代表取締役社長	竹中恭二		
代表取締役副社長	和田英生	執行役員	工藤一郎
代表取締役副社長	鈴木 浩	執行役員	デイビッド J.マリック
取締役兼専務執行役員	荒澤紘一	執行役員	杉本 清
取締役兼専務執行役員	土屋孝夫	執行役員	星 恒憲
取締役兼専務執行役員	中坪博之	執行役員	森 郁夫
取締役兼専務執行役員	高木俊輔	執行役員	石原 卓
★取締役	トロイ A.クラーク	執行役員	岡崎鎮弘
		執行役員	湯浅誠治
専務執行役員	中原國隆	執行役員	桜井 智
専務執行役員	伊能喜義	執行役員	石藤秀樹
専務執行役員	小松 照	執行役員	望月孝司
		執行役員	デレック C.レック
常務執行役員	塚原 穰	執行役員	芹澤洋一
常務執行役員	和仁喜三郎	執行役員	清水一良
常務執行役員	及川博之		
常務執行役員	石丸雍二	常勤監査役	街風武雄
常務執行役員	奥原一成	常勤監査役	永野正義
常務執行役員	松尾則久	☆常勤監査役	谷代正毅
常務執行役員	田村 稔	☆監査役	田代守彦
常務執行役員	鷺頭正一		
常務執行役員	寺尾俊文		
常務執行役員	石神邦男		
常務執行役員	近藤 潤		

[注1] ★印は商法第188条第2項第7号ノ2に定める社外取締役であります。

[注2] ☆印は商法特例法第18条第1項に定める社外監査役であります。

[株主メモ]

決算期日 3月31日
株主確定日
・定時株主総会 } 3月31日
・利益配当金 }
・中間配当金 } 9月30日
・その他の基準日 上記のほか、取締役会の決議により
あらかじめ公告する一定の日

定時株主総会 6月中

名義書換代理人

東京都中央区八重洲一丁目2番1号

みずほ信託銀行株式会社

同事務取扱場所

東京都中央区八重洲一丁目2番1号

みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

[郵便物送付先・電話お問合せ先]

〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号

みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

電話 03-5213-5213〔代表〕

同取次所

みずほ信託銀行株式会社 全国各支店

みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店

[会社の概要]

社名 富士重工業株式会社
英文社名 FUJII HEAVY INDUSTRIES LTD.
創立 昭和28年7月15日
資本金 1,537億9,527万円
従業員数 14,253名
主要製品 普通・小型自動車、軽自動車、
航空機、汎用エンジン、環境車両
本社 〒160-8316
東京都新宿区西新宿一丁目7番2号
電話 03-3347-各部署ダイヤル直通
番号案内 03-3347-2111

IRメール配信のお知らせ

IRに関する最新の情報をメールにて、お届けする「IRメール配信」のご登録を受け付けております。

ご登録いただいた皆様にはプレスリリース、決算情報などIRに関する新着情報をメールにてお届けいたします(無料)。

ご希望の方は、下記アドレスの中の「IRメール配信」にアクセスしていただき、必要事項をご入力の上、ご登録ください。また、ご希望の方は、下記アドレスの中の「IRメール配信」にアクセスしていただき、必要事項をご入力の上、ご登録ください。

HPアドレス <http://www.fhi.co.jp/fina/index.html>

表紙の写真はインプレスWRC 2004(ラリー・ジャパン2004にて)



PHOTO:スバル R2 R

富士重工業株式会社

〒160-8316 東京都新宿区西新宿一丁目7番2号

電話03-3347-2111

(ホームページ)<http://www.fhi.co.jp/>

